

2021年度 事業報告書

2021年4月1日～2022年3月31日

特定非営利活動法人アトピッ子地球の子ネットワーク

1 事業の成果と課題

【食物アレルギー・貧困支援】

新型コロナ禍による世帯収入の減少、失職、ひとり親家庭などの困難な状況から、食物アレルギーのある子どもの中にも経済的な困窮に陥っている人がいます。食物アレルギー用食品は計画生産が徹底されているためかフードバンクにも出回ることがほとんどないようです。食物アレルギーの子どもが経済的に困窮してもフードバンクや子ども食堂を頼ることができない事例が出てきています。

2020年度に引き続き今年度も、食物アレルギーの子がいる貧困家庭、ひとり親などを主な対象として、アレルギー用粉ミルク、アレルギー用食品(食料)支援、子ども食堂へのアレルギー食材料提供と情報支援、フードパントリーへの食品供給などをテーマに活動しました。

複数の助成金を申請し採択されて何とか「支援」を実現してきましたが、これは少ないスタッフで実施する短期集中の作業を、事業採択されるたびに繰り返しているため、支援は実現しましたがスタッフは疲弊しました。しかし新型コロナ禍の収束はまだ終わらず、ひとたび貧困に陥った人が、コロナ禍が去ったからと言ってすぐに普通の生活に戻れるわけでもありません。私たちの事業展開も、短期集中から中長期を視野に入れた支援の形を構築しなければならないと感じています。

【ティーンズミーティング】

また、10～20代の食物アレルギーがあり、社会生活で様々な困難に出会っているティーンエイジャーを対象に、オンライン・グループワークの形式でミーティングを多数開催しました。自分の経験や気持ちを同じ立場にある同世代の人に伝え、相手の話も聞き、共感することで、自分自身や社会に対する否定的な気持ちを「どうやったら解決できるか」「どのように話せば切り抜けることができるか」といった気持ちに変化することを促したいと考えました。コロナ禍でも遠くの地域や様々な年代の人と出会い、交流することができたと思います。オンラインティーンズミーティングは、ボランティア活動の土台にもなるため、今後も継続した交流と学びの場を提供していきたいと考えています。

【ケアリーバーのためのステップルーム】

患者支援だけを30年近く続けてきましたが、夏休み環境教育キャンプを26回以上継続開催した中で、ほとんどの開催時に「里子」や「ファミリーホーム」の子ども達を毎年3～5人無料招待してきました。被虐待児童、発達障害、外国ルーツなどいくつかの課題があって親元で生きることができなくなった子ども達と関わる中で、ファミリーホーム卒業後の子ども達がその後もたくさんの困難の中にあり、貧困であり続けることが気になっていました。新型コロナ禍でその状況が広がっていることを知り、新たな事業として児童養護施設やファミリーホーム、里親(社会的養護)の卒業生となったケアリーバーを対象にした「ステップルーム」の運営を始めました。18歳～23歳をおよその対象年齢として、女性を対象に自立した生活の練習の場として住む場所を提供しています。これは私たちにとって全く新しい試みですが、今までの活動の必然の展開であったと思います。

2 事業の実施に関する事項

(事業費の総費用【 16,793 】千円)

(1) 特定非営利活動に係る事業						
事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
電話相談	<p>・電話相談窓口開設(オンライン相談窓口開設)</p> <p>新型コロナ禍以降、相談スタッフもリモートワークとなり、電話相談からZoomを利用した事前予約制のオンライン相談に転換して実施中。相談員の他にスーパーバイザーを置くことで(複数人で相談を受ける)、社会的な相談窓口を発足以来28年間に渡り維持している。オンライン相談と並行して患者家族や本人によるオンラインおしゃべり会や交流会を実施した。</p> <p>アトピー・アレルギー性疾患のある患者の家族(保護者)や当事者などからの相談を受け、相談者に寄り添い暮らし方のアドバイスを。「正しい答え」を伝えるのではなく、相談者が自身で判断するための伴走者として当法人の相談窓口はある。大規模災害で被災したアレルギー患者・災害弱者、育児放棄や虐待などで親と一緒に暮らすことができない子どもを受け入れる里親・ファミリーホーム、また、企業・団体・行政職員などからの相談も受け付けている。</p>	<p>オンライン相談を毎週木金曜日に設定、事前予約制(11:00・13:00・14:00開始)</p> <p>祝日、8月休</p> <p>おしゃべり会3回</p>	<p>法人事務所</p> <p>リモートワーク場所</p>	4人	<p>食物アレルギー、喘息、アトピー性皮膚炎などのアトピー・アレルギー性疾患、化学物質過敏症患者、その家族及び一般市民、企業・団体、行政不特定多数</p>	0
調査研究	<p>・新型コロナ禍により生活困難になったアレルギー患者家族への聞き取り調査</p> <p>アレルギー用粉ミルクや食品を送付した患者家族を対象に、状況を把握し支援活動の実際に活用した。</p>	7月～3月	<p>法人事務所</p> <p>リモートワーク場所</p>	4人	不特定多数	18
環境教育	<p>・夏休み環境教育オンラインキャンプ2021</p> <p>新型コロナ禍でもキャンプの灯を消さないように、オンラインキャンプを3日間開催。運営のため学生を中心としたボランティアも参画。協力企業の製品開発話しや商品紹介(カレーやスパイス等)、レンジでケーキ作り、アレルギー表示ワークショップ、お弁当コンテスト、</p>	<p>4月～3月</p> <p>8月9日、14日、15日</p> <p>事前ボランティアミーティング3回以上開催</p>	<p>法人事務所</p> <p>リモートワーク場所</p> <p>新宿NPO協働推進センター</p> <p>藤野芸術の家(神奈川県相模原市)</p> <p>山梨県上野原市(当法人拠点)</p>	20人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族及び一般市民 不特定多数	181

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
環境教育	<p>ティーンズワークショップ、実際に沢を歩いた映像を共有しながらの生き物の話し、各自が自分の居場所で走って走行距離を累計して発表、みんなでおしゃべり、ブレイクアウトルーム等を実施。オンラインで動画公開。</p> <p>通常は食物アレルギー、喘息、アトピー性皮膚炎のある患者とその家族を対象とした体感型環境教育プログラムを提供してきた。「エピペン」(食物アレルギー緊急時治療用自己注射)持参の子どもも数多く参加。食事は「症状の重い」子どもに合わせてみんなで同じものを食べる試み(学校給食とは逆の発想)。アレルギーだけではなく発達障害などの多様な子どもの課題に対処。将来地域や仕事で患者を支援する立場になる、栄養士、保育士、教員、社会教育、医療系の学生や社会人がボランティアとして参加。次世代ボランティアを養成するためのインキュベーター企画でもある。また、大規模災害発生時には被災したアレルギー患者家族、社会的養護下にある子ども達を優待・無料招待している。</p>					
	<p>・秋山プロジェクト 人と自然の共生、身体と環境の関係を、山梨県旧秋山村の当法人拠点とその周辺をフィールドとして里山ウォーキング等を体験し学習する機会を提供した。大人と子どもが一緒に参加できる企画である。</p>	4月～3月 6月、1月、3月	山梨県上野原市 法人事務所	3人	17人	
情報提供	<p>・Webサイト「食物アレルギー危機管理情報(FAICM)」(FAICM=Food Allergy Information for Crisis Management) アレルギー混入事故食品に関する自主回収情報を本サイトにアップ・集約し、サイトに登録した食物アレルギー患者などに案内メールが直接届くWebサイトを運用した。市民と企業による公共知の創造を目指している。</p>	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	7人	不特定多数	25,919

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報提供	・カードゲーム「らんらんランチ」 食物アレルギー認知・理解向上のためのキャンペーンツール。 4個1セット(12人～20人が遊べる)を普及した。	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	3人	不特定多数	
	・東京子育て・食物アレルギーまっぴんぐ 食物アレルギーのある子どもを養育する母親自身が都内の身近な場所で経験した「よいこと」を集め、公共知にまで高めることができないかという仮説を立て、事実確認と情報整理をしながら、広く活用できるデータベース(ホームページ)を運用した。	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	3人	不特定多数	
	・エピペン(食物アレルギー緊急時自己注射)携帯ケース エピペンを子ども自身が持参し自己防衛と危機管理をするための「エピペン携帯ケース」を製作、販売した。	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	3人	不特定多数	
	・依頼原稿等の執筆 依頼原稿執筆等、広く情報提供を行った。	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	3人	不特定多数	
	・ホームページの運用 活動内容の紹介等、広く情報提供を行った(オンラインクレジットカード、コンビニ等決済システム維持管理を含む)。同じくfacebookやTwitterなどのSNSも運用した。	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	5人	不特定多数	
	・情報センター機能 メディア取材、企業・団体からの情報提供依頼、研究者への協力等に資するため、各種情報誌、学会誌、書籍等を閲覧に供した。新型コロナ禍により、オンラインや個別データ送付などで対応した。	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	3人	不特定多数	
	・執筆書籍や自主発行制作物の普及 当法人が制作・発行した小冊子、調査報告書などを配布した。	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	3人	不特定多数	

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報提供	・アレルギー対応製品販売協力 アレルギー対応製品を選択せざるをえない患者が安心して商品選定ができるよう協力した。また、アレルギーや商品に関わる動向についてリサーチを実施した。オイシックス・ラ・大地協力事業	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	3人	不特定多数	
	・食物アレルギーの人の食生活を豊かにするための「共同食品カタログ2021」 食品・流通企業の各商品の一つのカタログに集め、情報を必要としている患者家族や医療機関、患者の通う保育園・幼稚園・学校、施設などに9,000部配布した。当法人ホームページからダウンロードできる。	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	7人	9,000人 不特定多数	
	・「生活用品カタログ2021」 生活用品の一つのカタログに集め、情報を必要としている患者家族や医療機関、患者の通う保育園・幼稚園・学校、施設などに5,000部配布した。当法人ホームページからダウンロードできる。	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	7人	5,000人 不特定多数	
	・組織運営協力 アレルギー表示の問題に取り組む組織の事務局運営に協力した。(一社)食物アレルギーフォーラム協力事業	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	4人	不特定多数	
(公財)小林製薬青い鳥財団助成事業	・食物アレルギーの子どもたちの安心安全を支援するプロジェクト 子ども食堂関係者を主な対象とした食物アレルギー勉強会開催(誤食事例から注意ポイントを学ぶ、調理環境や食事提供時の安全管理)。食物アレルギーがある高校生、学生などの若者を対象としたワークショップ開催により、子ども自身が安全安心を学び、自立できるようになることを応援した。報告記録集を作成配布した。	4月～3月 2020年4月から2カ年継続事業	法人事務所 リモートワーク場所	4人	学習会3回 ティーンズミーティング7回 (ワークショップを含む) 不特定多数	

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報提供	<p>J-Coin基金助成事業 事務局：(公財)パブリックリソース財団</p> <p>・食物アレルギーの子ども応援プロジェクト</p> <p>新型コロナ禍により経済的に困窮した、食物アレルギー用の食品が必要な子どもがいる家庭に必要なアレルギー用粉ミルク・食料を無償提供して、経済的負担を少しでも解消し子どもの命をつなぎつつ母親(保護者)を応援した。また、アレルギーの子ども一般の子どもと同じものを食べられる食材料を使う、ユニバーサル給食の実施を希望する子ども食堂に、食物アレルギー用食料を無償提供した。勉強会も開催した。</p>	4月～6月 2020年7月からの継続事業	法人事務所 リモートワーク場所	6人	アレルギー用粉ミルク58件(1回に1カ月分)、食物アレルギー用食料108件(1回7種類約12食分)、子ども食堂6カ所(100人規模3カ所、70人1カ所、20人1カ所、10人1カ所)4,500食分 勉強会1回 *全実施期間中実績 不特定多数	
	<p>匿名基金A コロナによる“光の当たらない被害者”の子どもたちを守る 助成事業 事務局：(公財)パブリックリソース財団</p> <p>・小規模保育所サポートプロジェクト</p> <p>新型コロナ禍、収入減、失業、ひとり親家庭など経済的に困窮している親子も利用する小規模保育所(定員6～19人、0～2歳児)。この小規模保育所を対象に数日分の必要な食品やおやつ、粉ミルクの無償提供を行い、誰もが一緒に食べることができるユニバーサルなものとする。通園する子どもの中には食物アレルギーの子どももいると想定されるのでアレルギー対応にも留意する。また、施設に通園する家庭が経済的に困窮している場合は、直接食品やおやつ、必要な場合は粉ミルクを無償提供する。保護者(母親)の経済的負担を少しでも解消し、心理的負担をやわらげ、安心して子育てできる環境をととのえることができた。</p>	4月～7月 2021年2月からの継続事業	法人事務所 リモートワーク場所	5人	保育所：7カ所×15種類アレルギー用食品×3回(総園児数159人、5種類×3回) 個人：アレルギー用食品130件×20種類(内アレルギー用粉ミルク8件×2回)。130件の内訳：ひとり親61件、失業6件、収入減48件(内6件が外国にルーツがある人)、双子5件、特殊疾病5件、生活保護3件、産休・育休2件。 不特定多数	

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報提供	<p>だいじょうぶだよ!基金 ひとり親家庭支援助成事業 事務局：NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ</p> <p>・アレルギーの赤ちゃん応援プロジェクト</p> <p>新型コロナ禍により経済的に困窮している、食物アレルギー用粉ミルクを必要とする赤ちゃんのいるひとり親世帯に、アレルギー用粉ミルクを無償提供した。済的負担を少しでも解消し赤ちゃんの命をつなぎつつひとり親世帯の暮らしを応援した。アレルギー用粉ミルクは一般品の倍程度の価格と高価であり、また、赤ちゃんの命綱であるにもかかわらず公的扶助の対象になっていない。</p>	4月～8月 2021年3月からの事業	法人事務所 リモートワーク場所	4人	不特定多数	
	<p>新型コロナウイルス対応緊急支援助成事業(休眠預金) READYFOR(株)</p> <p>・子ども食堂ユニバーサルな食事プロジェクト</p> <p>新型コロナ禍により経済的に困窮した、収入減少・失職・ひとり親家庭にも食物アレルギーの子どもがいる。食物アレルギーの子も一般の子も同じものを食べられる食材料を使う、ユニバーサルな食事の提供を希望する意欲的な子ども食堂への食料の無償提供を行なった。このような子ども食堂があることにより、アレルギーの子のいる母親の経済的・心理的負担を少しでも解消することができた。</p>	4月～2月 2021年3月からの事業	法人事務所 リモートワーク場所	5人	不特定多数	
	<p>(公財)パブリックリソース財団 助成事業</p> <p>・新型コロナ禍アレルギー用粉ミルク支援活動</p> <p>新型コロナ禍により経済的に困窮している、食物アレルギー用粉ミルクを必要とする赤ちゃんのいる家庭に、アレルギー用粉ミルクを無償提供した、別助成事業を補完するために活用した。</p>	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	4人	不特定多数	

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報提供	日本郵便 年賀寄付金配分助成事業 ・食物アレルギーの子も共に食べることができる子ども食堂ユニバーサルなご飯プロジェクト 子ども食堂に、アレルギーの子と一般の子が共に食べられる「ユニバーサルな食事」を提案し、アレルギー用食品を無償提供した。ユニバーサルな食事レシピと安全管理に必要な安全・リスク管理資料(マニュアル)を作成配布した。	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	6人	不特定多数	
	積水ハウスマッチングプログラム助成事業 ・新型コロナ禍、生活困難な家庭の赤ちゃんに粉ミルクをプロジェクト 新型コロナ禍により、世帯収入の減少やひとり親など、生活が困難になった家庭の赤ちゃんにアレルギー用粉ミルクを無償提供した。	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	6人	アレルギー用粉ミルク64件、アレルギー用食品74件 不特定多数	
	NOBUKO基金助成事業 事務局： (公財)パブリックリソース財団 ・ボーダーラインの子どもたちの自立支援/ステップルーム 社会的養護施設等を単立した18歳～20歳(入居時)のケアリーバーの女性を対象に自立練習のためのステップルームを開設した。高校卒業後に親や保護者の支援を得られない見込みがなく、一人で生活することもできない人の行き場がなく、近隣には受け入れ施設が少ないという課題に取り組んだ。	7月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	7人	2人 不特定多数	
	ひとり親家庭等の子どもの食事等緊急支援プロジェクト(2021年度厚生労働省「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」)助成事業 事務局：NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ ・ひとり親家庭の食物アレルギー子育て支援プロジェクト(アレルギー用粉ミルク・アレルギー用食料支援) 新型コロナ禍で生活困難となったアレルギーのある子どもいるひとり親家庭に、アレルギー用粉ミルクを無償提供した。	2月7日～3月	法人事務所 リモートワーク場所 山梨県上野原市	7人	発送数190件(アレルギー用粉ミルク59件、アレルギー用食品131件) 不特定多数	

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
普及啓発	<p>・講師派遣</p> <p>新型コロナ禍によりオンライン開催となった。アトピー・アレルギー性疾患に関わる患者実態、危機管理、災害支援、10～20代の課題(ティンズミーティング)、子どもや保護者が抱える課題などについて広く共有した。また、通常はNPO法人運営、市民活動(運動)等に関する情報を、市民、企業・団体・行政・学校等に広く提供している。一部自主開催企画もある。</p>	4月～3月	依頼者が指定する会場 法人事務所 リモートワーク場所	4人	7回 不特定多数	396